

# どんびま

2015年7月8日発行  
発行者 椛の湖農業小学校

## 空家を活かそう

空家が増えている。都会でも、田舎でも。田舎の空家は古くてもいい木が使ってあって、ちょっと直せば、快適に住めるものが少なくないという。

ただ、「空家はあるけど貸し家はない」と言われるように、いざ借りようとする断られてしまうケースが多いという。田舎の親が亡くなって、都会へ出た子どもはやっぱり都会で暮らすのだが、いつでも帰れるふるさととは捨てられない。いつかは田舎へ戻って来るかもしれない。などという想いが強いのも田舎人ならの心情と理解できる。

それでは話が進まないから、仲を取り持ち、新しい生活スタイルを後押しできる組織が必要になる。都会から移り住む人を迎えるためにも、若者が田舎に留まるためにも、地域が地域の生活や文化を見直しながら、ちょっと面倒な人付き合いの濃さも含めて、らしさを主張することが大事だろう。（草）



## 7月授業日のご案内

●日程 7月19日（日）

受付 9:00～9:30

始めの会 9:30～9:40

授業（畑仕事） 9:40～11:00

火をおこして炊飯 11:00～12:00

昼食 カレーライス、サラダなど 12:00～

昼休み カブトムシの運動会

キャンプの相談・案山子作り 13:00～

終わりの会 15:00～15:15

●服装 作業のできる服装

●持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具

箸、食器、スプーン

買い物袋（ジャガイモ持帰り用）

案山子（かかし）を作る材料

カブトムシ

●締め切り 7月16日（厳守）

☆カブトムシは育てていますか。成虫になっていたら、持ってきて下さい。

☆かかし作りは家族で1体作ります。8月までに完成させて、8月に皆で投票する「かかしコンクール」をした後、畑や田んぼの側に並べて立てます。骨組み（3cm角の十字架型の木材と胴体にするワラ）はこちらで準備しますので、頭部、帽子、着物などは各自で準備、工夫して来て下さい。

☆キャンプの相談 大人は 食事・もの作り・遊び の三つの係に分かれて相談します。（その間に）生徒さんはキャンプファイヤーでのグループの出し物を相談してもらいます。それぞれ、楽しい案を考えて来て下さい。

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362（山内總太郎）

## ～とくちゃんの農小レポート～

### ～芳醇な手揉み茶を味わいました～

今年も朝から雨に見舞われましたが、雨間をみてお茶の手摘みも行なう事ができました。お昼には芳醇なお茶の香りを味わうことも出来ました。

- 1 午前の授業。 お茶摘み、お茶揉み、乾燥。 農場長必至の手入れも空しく、今年のお茶葉の伸びがイマイチでしたので、農場長の知人から刈り取って頂いた葉を皆さんで選別しました。少し雨が上がったので手摘み体験もできました。蒸した葉を筵（むしろ）の上で手で揉み上げ、炭火を使い昔ながらの焙烙（ほうろく）で手返ししながら時間を掛けて乾燥させました。
- 2 昼食。 朴葉すし、かき玉汁、大根人参玉ねぎのサラダ、スティックセニョール、蒸玉ねぎ、白かぶとベーコンの煮物。朴葉すしは、当地方でこの時季（6月中）になると、何処の家庭でも必ずと云っていいほど作る郷土食です。今年もお母さん達の手を借りながら沢山作りしました。前々日からスタッフが高い木の枝から葉っぱを採るのは大変な作業です。版画を彫る版木の朴（ほう）の木の葉には殺菌作用があり、寿司ご飯との相乗効果により乗せ具に、生物を入れない限り長持ちしますので、よくお出掛けの弁当にしました。
- 3 午後の授業。 大根、小松菜、ちんげん菜、キャベツ、の収穫。今年の大根は成績が良く、大小有りながらも豊作でした。レタスは収穫時季が遅かったようです。人参は先生方に間引きをして頂きました。
- 4 キャンプの出し物の相談。 昼休みを利用して8月のキャンプに行なう、出し物についての相談をしました。今年は内容が重なるグループが無く、第一希望の出し物で次のような内容となりました。

1G	〇×クイズ。	2G	缶積み。	3G	宝探し。
4G	ポーリング。	5G	肝試し。		

7月には細かな打ち合わせを行い、スムーズに進行するようグループ長はまとめをしっかりお願いします。
- 5 持ち帰り。 大根、小松菜、ちんげん菜、きゃべつ、間引き人参。人参の葉は天ぷらにすると美味しく食べられます。バケツ稲の苗は、先月活着しなかった方達に配られました。まだ充分間に合いますのでテキストに従って育てて下さい。

### ～とくちゃんのちょっと一言～

私がまだ足の有った頃は、残雪のある6月が山歩きシーズン入りで、前日に作った朴葉寿司が山での昼食でした。仲間たちとワイワイ云いながら火の通った具のみを10種類ほど載せて押し寿司とし、翌日の昼には、3000メートル目指して登る活力となったことを懐かしく思い出します。勿論バナナと餡パンは副食でしたが、これも頑張る源となっていました。

～あぼ兄の百姓ばなし～

## あぼ兄の健康法 その1 スポーツ

あぼ兄は健康の目安として、毎晩体重計に乗る。長い間 65kg より下がったことがなかったが、最近では減量の成果が出て針は 63kg を指す。

かつて 70kg が標準体重だったあぼ兄は、63kg という数値には辛い思い出がある。

1960 年代後半の社会情勢は高度経済成長期で、日本列島改造論などといって太平洋ベルト地帯に労働力を集めた。水が低い所に流れるがごとく若者は農村から都会へ流れた。農村では過疎が、都会では過密が社会問題となり、あちこちで公害問題が起きた。

それと大きく変わったのは、モータリゼーションつまり自動車社会の到来だった。

そんな折、あぼ兄の勤務していた濃飛バス会社に名古屋の大手資本が導入され、大合理化が始まった。あぼ兄は労働組合の仲間と共に闘った。会社は無法な提案を突き付けてきた。観光路線は残すが、地方を走る路線は廃止すると云う。通勤通学の大切な足を奪うものだ。さらに、人減らし、組合つぶしがあり、提案が通らないと云う組合員への兵糧攻めをしてきた。5・6 万円だった給料が、2 万円、1 万円、5 千円と減らされ、最後は 1 千円になった。今なら考えられない無法振りだ。あぼ兄たちはそれに対抗して波状的に 16 日間のストライキで闘った。あぼ兄は 13 時間乗務、夜は組合の会議という生活だった。中央闘争委員でもあったので、勤務が終わってから高山市の本部まで片道 100 km を往復し、翌朝始発のバスに乗務したこともあった。

地元の自治体は住民の足を守るためと闘争に理解を示してくれた。大手新聞が「過疎と闘う濃飛バスの実態」を 1 面トップで報じてくれた。当時国の補助金は、全国に 200 社ある中で離島の交通機関にだけ出していたが、闘争後 53 社に過疎バス補助金が交付されることになった。中でも濃飛バスはダントツの補助額をうけることになった。

時を同じくして、あぼ兄は勤労者音楽協議会(労音)の仲間たちと日本で初めての本格的な野外コンサートを企画していた。40 回余の一流歌手のコンサートをやってきた中津川労音だったが、夜通しの野外コンサートは地元の理解を得るのも難しかった。幸い理解のあった坂下町は椀の湖の原野を県の補助金で整地してくれたが、準備のためのお金は何処からも出ず、入場料だけを当てにしていた。大雨や台風で中止にでもなれば大赤字になる。会場・ステージ・水道・仮設トイレなど全て手作りだった。あぼ兄は設営の責任者だった。期日に間に合わせるために、後半は勤務が終わってから夜 10 時頃までも作業をした。若さだけでは続けられないことだった。

69～71 年、椀の湖での全日本フォークジャンボリーは全国で大きな話題となり、社会現象にもなった 71 年には 2 万人ともいう人が集ったが、3 回で終了した。

過疎バスは国の補助金と、地元行政の対応で、ダイヤの間引きはあったがなんとか住民の足である路線を守ることができた。

張りつめていたものが一度に無くなると、今まで酷使してきた身体を責め始めた。自分勝手に病名をつけて悩んだ末に、体力も気力も無くし会社を辞めた。その時体重が 63kg まで落ちた。後年、農小の取材に来た女性雑誌記者が言い当ててくれた。「あぼ兄の病気はバーンアウト(燃え尽き症候群)だった」と。

退職後、農業をしながら好きだった草野球に取り組んだ。日を追うごとに今まで苦しんだ胃と痔も楽になり、便秘と下痢も治った。お酒も楽しむようになった。

野球は若者・同好者を集めて、早朝野球の組織を作った。5 年間で 7000 人の町に 30 チーム(約 500 人)ができた。それまでスポーツらしきものをしてきたことが無かっただけにスポーツは壮快で素晴らしいと実感した。あぼ兄の健康回復の特効薬だった。

## ～かなちゃんの虫日記～

土反下のとなり町、付知町の熊谷守一記念館へ行きました。  
守一さんは付知出身で、虫や草花、ねこなどなどを描いた人です。

90才もこえて描かれた糸会もカラフルでみずみずしくて見ると元気に  
なれました。印象的だったのは庭で寝転がっている守一さんの  
大きな写真です。庭の植物や生き物を毎日ずっと見ていたそうです。  
「アリは左の2番目の足から歩きます」らしいです!!!

後日、わたしもうちで庭にきものをしいて見てみました。  
アリはすぐ見つけ、しばらく見ていましたが、うーん...、小さいし  
速いしなかなかわからない...、そうこうしてるうちに木黄にいた  
目黒くん(9か月の息子。ハイハイするようになりました)が、いつのまにかアリまみれに  
なっていたのでその日は中止しました。いつか石霍かめなければ。

アリもミツバチのように女王だけが卵を産み、はたらきアリは  
みんなメスです。はたらきアリは初めは卵やムカゴ、さなぎの世話、  
巣作りです。年をとってくると、商女を見張ったり、食べ物を探しにいたり  
外の仕事です。オスは交尾の時期だけが生まれます。他の巣の  
新しい女王と出会うために空へ飛んでいきます。

その日の夕方、偶然、庭でものすごい数の羽のついたアリが地面  
から空へと飛んでいきました。オス達、女王と出会えたかな？



触角ちゃんちゃんごあいさつ。  
触角でにおいをかぎます。  
においで仲間か石霍かめます。